

藤野 喜一博士を偲ぶ

水野 幸男

本会元会長／日通工（株）会長

創価大学大学院教授の藤野喜一氏は、情報処理学会より平成10年度の功績賞を受賞して間もない平成11年7月7日逝去されました。享年68歳でした。謹んで心より哀悼の意をささげます。

藤野喜一氏は昭和6年東京に生まれ、昭和30年3月早稲田大学第一理工学部数学科を卒業され、昭和41年に同大学の講師になり教育、研究活動に励まれ、昭和48年9月同大学より理学博士の学位を受けられました。昭和43年4月に日本電気株式会社に入社し、平成4年3月まで永年にわたりソフトウェアの開発研究に従事され多くの優れた業績を挙げられました。平成4年4月電気通信大学の大学院情報システム学科研究科教授になられ、定年後、創価大学工学部情報システム学科教授に就任をされ、学生の教育と研究活動に多大の功績を挙げられました。

藤野氏と私の出会いは昭和43年、同氏が日本電気に入社された頃であり、素晴らしい人が我が社へ来られたと大変喜んでおりました。その後、藤野氏は日本電気の中央研究所コンピュータ・サイエンス部門において主としてソフトウェアの研究をされていましたが、ぜひ一緒に仕事をしたいと思い、私のオペレーティング・システムの開発部門に来てもらいました。この時から藤野氏との永い深い交流が始まりました。

その頃、日本の情報産業は急成長しておりました。ハードウェアは我が国の半導体産業に支えられかなりの技術水準にありましたが、ソフトウェア、特にオペレーティング・システムの開発はかなり外国に比べ遅れておりました。その機能、構造はともかく、非常に厳しい環境で使用されるため品質面がきわめて重要な問題でありました。そこで、藤野氏にソフトウェアの品質保証活動を起

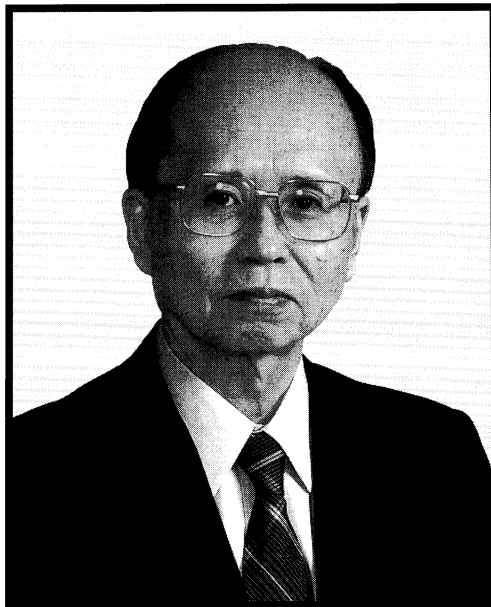
こそうではないかと相談したところ、ただちに大賛成してくれまして、この運動が始まりました。しかし、当初はソフトウェアのQCサークル的な活動はソフトウェアの技術者には向かないと反対意見も強く、なかなか進展しませんでした。同氏はそれらの反対意見を持つ人たちとひざ詰めで話し合ったり、合宿、講習会を通して説得し続けました。その結果、社内ばかりでなく学会を通して広く我が国のソフトウェア産業にソフトウェアの総合的な

品質保証活動が浸透し、ソフトウェアの品質向上に大きな功績を残されました。来年2000年には日本で世界ソフトウェア品質管理大会が行われる予定です。藤野氏も大変喜んでおられると思います。同氏はソフトウェア開発組織としてのプロセスの成熟度を表すCMMの重要性に着目し、カーネギーメロン大学のハンフリー教授とともにCMMおよびPSPの普及に我が国ばかりでなく世界的に活躍されました。藤野氏の逝去を知ったハンフリー教授から「藤野博士の訃報に接し大変悲しんでおります。彼はCMMとPSPのすばらしい支

持者であり、よき友でした。」とのメッセージが寄せられています。

藤野氏は学界から産業界に入り、また産業界から学界へ戻られました。「産業界と学界を結ぶ貴重な架け橋」でありました。ソフトウェアに関する理論と実際、実際と理論とを融合させた類まれな才能と経験を有した方でした。21世紀に向かって、藤野氏のように産・学の両領域において優れた業績を挙げる方が特にソフトウェア分野ではますます重要になると思います。

心からご冥福をお祈り申し上げます。



御 略 歴

昭和 6年 2月 15日	東京生まれ
30年 3月	早稲田大学第一工学部数学科卒業
32年 3月	同大学大学院工学研究科博士課程修了
41年 4月	早稲田大学理工学部講師
43年 4月	日本電気株式会社入社
48年 9月	理学博士（早稲田大学）
53年 10月	日本電気株式会社基本ソフトウェア開発本部長
56年 7月	ソフトウェア生産技術研究所所長
平成元年 1月	同社常務理事
4年 4月	電気通信大学大学院教授
8年 4月	創価大学工学部教授
平成11年 7月7日	逝去（68歳）
昭和35年 12月	情報処理学会入会（会員番号196007547）
昭和56年5月～58年5月	情報処理学会理事
平成 7年 6月～9年3月	情報処理教育カリキュラム調査委員会委員長
受賞 昭和58年	第30回大河内記念技術賞
平成 元年 10月	東京都技術功労者表彰
11年 5月	情報処理学会功績賞